

④2 福井駅付近連続立体交差事業

受賞機関 福井県 土木部

キーワード 鉄道高架化、新幹線高架橋の仮線利用、早期完成

全建賞審査委員会の評価ポイント

交通の円滑化を図るとともに、鉄道により分断された市街地の一体化を図るため、JR北陸本線とえちぜん鉄道勝山永平寺線・三国芦原線を高架化する連続立体交差事業。えちぜん鉄道の高架化にあたっては、建設中の整備新幹線（北陸新幹線）の高架橋を仮線として利用する全国初の試みにより、早期の効果発現を実現した点が評価された。

1. はじめに

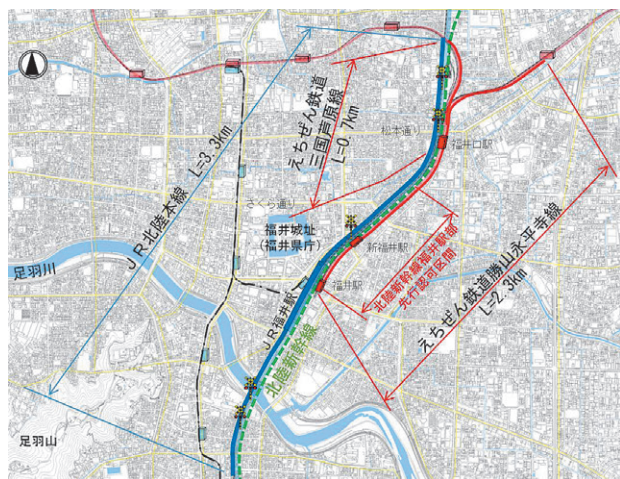
福井市中心部は、「JR北陸本線」と「えちぜん鉄道勝山永平寺線・三国芦原線」（旧京福電鉄、以下「えちぜん鉄道」）により東西に分断されていた。そのため、市街地を一体化させ、活力と潤いのある県都創造を目的として、平成3年度から福井駅付近連続立体交差事業に着手した。

また、駅前広場や区画街路等を整備する福井駅周辺土地区画整理事業を福井市が実施し、整備効果の向上を図った。

2. 事業の概要

本事業は、「JR北陸本線約3.3km」と「えちぜん鉄道約3.0km（うち勝山永平寺線約2.3km、三国芦原線約0.7km）」の高架化と、25路線の交差道路整備（土地区画整理事業での整備含む）、5箇所の踏切除却を行うものである。

本事業ではまず「JR北陸本線」の高架化工事に着手し「えちぜん鉄道」や「JR北陸本線」の仮線整備、既設跨線橋の撤去等を経て、平成17年4月に「JR北陸本線」を高架化した。



位置図（事業概要）

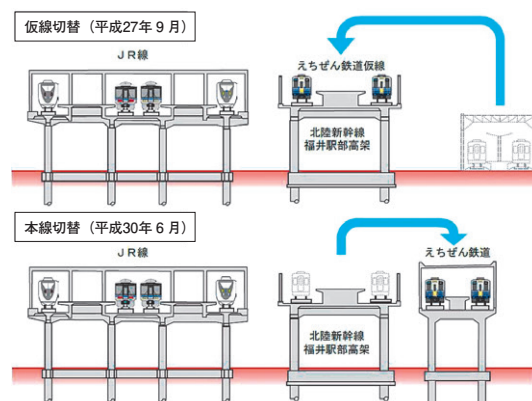
その後、「えちぜん鉄道」の高架化工事にあたり、既に完成していた「北陸新幹線 福井駅部 先行認可区間」を「えちぜん鉄道」の仮線に利用した。本来は本線切替後でなければできない「踏切除却」および「交差道路整備」を、新幹線高架橋を仮線に利用することにより、当該区間の立体化工事を3年前倒して完了する事ができ、早期効果発現が可能となった。地域鉄道が新幹線高架橋を利用して仮線運行したのは全国初の試みである。

3. 事業の成果

福井市中心部において鉄道と交差する「さくら通り」の踏切部では、ピーク時に450mもの渋滞が見られたが、踏切除却が早期に可能となったことにより渋滞が解消されると共に、平均走行速度も約2.3倍向上した。

その後も順調に事業を進め、平成30年6月には、「えちぜん鉄道」の本線切替を実施し、最後まで残っていた「松本通り」の踏切除却により、最大320mの渋滞が解消され、平均走行速度も約2.7倍向上した。

バス会社からは運行の定時性向上、地元消防や警察からは緊急時の到着遅延リスクの減少といった声を頂いている。



断面図（新幹線高架を利用した仮線運行）

4. おわりに

今後、令和4年度に予定されている「北陸新幹線」の福井・敦賀開業に向けて、福井駅周辺では再開発事業等も併せて進められており、連続立体交差事業の効果である「東西の一体化」がより活かされる賑わいの拠点整備が引き続き行われていく。

賛助会員 坂川建設(株)